車椅子バスケットボール体験を中心にしたパラスポーツ体験学習
「車椅子でもスポーツできるよ！」

学校名　萩市立大島小中学校（山口県）全学年
小学部：全校児童数２９名（男子２０名、女子９名）
中学部：全校生徒数１８名（男子４名、女子１４名）
（本実践に係る問合せ先）
電話番号　０８３８（２８）０５８７
学校メールアドレス hagioshima-e@edu.city.hagi.lg.jp

実践（研究）のねらい
１　車椅子バスケットボール選手との交流や体験活動を通して、誰もが個人の特性に応じてスポーツに親しみ、豊かな人生を送れることを知ることにより、遊びや運動、とりわけパラスポーツに対する関心・意欲を高める。
２　障害者と健常者とがパラスポーツを一緒に楽しむことを通して、共生社会を構築していくための課題の理解と、その解決に向けた実践的な態度を育てる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

１　体験学習の効果を高めるための事前学習
（１）パラスポーツを題材にした福祉教育の実施
視覚障害者ランナーとして、障害者スポーツ大会「キラリンピック」に前身の大会を含め３０年連続出場し、数多くのメダルを受賞されている 野坂千恵子さん（山口県熊毛郡田布施町在住）を招いて、障害者スポーツに関する講話を聞いたり、アイマスクを使った「ブラインドランニング」の体験をしたりする授業を行った。
（２）オリンピアンとの交流行事の実施（萩市国際交流に係る計画による）
北京、ロンドン、リオの３回のオリンピックのカヌー競技で３つの銀メダルを獲得した英国代表デビッド・フローレンス選手を本校に招き、交流活動を行った。
２　パラスポーツ体験学習「車椅子でもスポーツできるよ！」の実施
（１）共生社会の構築に向けた授業の実施
体験学習当日を人権教育参観日とし、活動の前に「障害者問題」に視点を当てた道徳、学級活動の授業を各学年（中学校は全校道徳）で行い、課題解決に向けた話合い活動を行った。
（２）競技用車椅子を使ったパラスポーツ体験学習の実施
講師：山口県車いすバスケットボール連盟　理事長　河本 公成　氏　他（全６名）
車椅子バスケットボールの歴史やルール等について、講師の説明を聞いた後、実際に用意された１０台の競技用の車椅子に児童生徒（一部教員、保護者）が交代で乗り、パラスポーツを体験した。
前進、後退といった単純な動きから始めて、徐々に複雑な動きを加えていき、最終的にはバスケットボール（小学生はポートボール）のミニゲームを体験した（学習後に振り返りを実施）。

○成果の意義

１　事前学習等により、児童生徒は活動前から高い興味・関心をもって、初めての体験に取り組むことができた。実施後の感想には、「自分もパラスポーツをやってみたい」という意見も見られた。
２　人権教育とのつながりの中で、これから共生社会を構築していく上でのスポーツの果たす役割について、児童生徒がそれぞれに考え、自分なりの意見をもつことができた。

○今後の課題

１　東京オリンピック・パラリンピックの出場をめざすアスリートに焦点を当てたキャリア教育の推進（道徳や特別活動等における「パラリンピック教育教材」等の活用を含む）。
２　児童生徒の体力の向上につながる具体的な取組の継続的な実施。

○ 研究内容

事前学習としての「福祉教育」の取組

野坂千恵子さんによる講話と体験学習を行いました。

オリンピアンとの交流行事

デビッド・フローレンス選手らと一緒に汗を流しました。

共生社会の構築に向けた授業（道徳・学級活動）

学年ごとにパラスポーツ等を題材にして行いました。

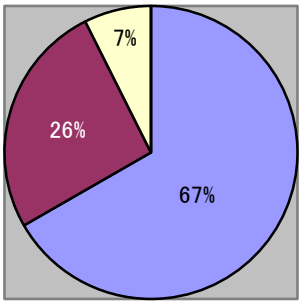
パラスポーツ体験学習

児童生徒全員が、車椅子バスケットボールを体験しました。

体験学習後の児童生徒の意見・感想（アンケートより）

小学校低学年・中学年と小学校高学年・中学生でそれぞれ振り返りを行い、意見や感想を書きました。

○ パラスポーツ体験学習「車椅子でもスポーツできるよ！」で、しっかりと考えることができたか。【高学年・中学生対象】



- とてもよくできた
- よくできた
- できた
- できなかった

※「できなかった」は０％

【児童生徒の意見・感想（抜粋）】

「ルールによって、誰でも平等にプレーできるスポーツだとわかった。障害の有無に関係なく、みんなが楽しめると思った。」

「体験を楽しむ中で、選手が輝いているように見えたのが印象的だった。私も自分のできることをきちんとしていきたいと思った。」

「競技用車椅子の仕組みと使う筋肉について知ることができ、驚いた。他の（競技の）車椅子についても調べてみたいと思った。」

今後の取組について

～　本実践終了後の学校の取組の方向性、内容について～

○ 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの出場をめざすアスリートに焦点を当てた道徳や特別活動等を通して、児童生徒がこれからの生き方を考え、自分を取り巻く環境の中で自らの目標に向かって主体的に学ぶキャリア教育を進めて行きたい。その際、「パラリンピック教育教材」（I'mPOSSIBLE 日本版事務局発行）等のさらなる活用を図りたい。

○ 来年度以降も、パラスポーツ等を題材にした人権教育を行うなど、この事業を通して共生社会の構築に向けた児童生徒の人権意識の高揚を図りたい。